

野菜の需給・価格動向レポート(平成24年6月4日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	5月の価格動向			生育及び価格の6月の見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	上旬				
葉茎菜	キャベツ	84.37	69	109	85	・入荷見込量: 14,558t (99) ・主産地: 千葉(47)、茨城(24)、群馬(8)、東京(6)	・千葉産は、順調な生育、出荷になっており、6月いっぱいは順調な出荷の見込み。茨城産は、一部地域の雹害の影響もあり、少なめの出荷になっており、今後も少なめの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が順調と見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		86.69	89	129	93	・入荷見込量: 3,700t (101) ・主産地: 茨城(38)、愛知(22)、兵庫(13)、大分(8)	・茨城産は、少なめの出荷だったが、生育が回復し、出荷量が増加傾向となっている。今後は出荷のピークを迎え、平年並みの出荷となる見込み。千葉産は、細め傾向で少なめの出荷になっている。 ・茨城産の出荷が順調と見込まれることから、価格は平年並みに近づく見込み。
	ねぎ (関東:白ねぎ 関西:青ねぎ)	264.1	379	286	330	・入荷見込数量: 4,630t (100) ・主産地: 茨城(64)、千葉(19)、輸入(7)	・茨城産は、少なめの出荷だったが、生育が回復し、出荷量が増加傾向となっている。今後は出荷のピークを迎え、平年並みの出荷となる見込み。千葉産は、細め傾向で少なめの出荷になっている。 ・茨城産の出荷が順調と見込まれることから、価格は平年並みに近づく見込み。
		334.73	346	347	357	・入荷見込数量: 220t (99) ・主産地: 徳島(27)、大阪(18)、奈良(15)、香川(14)、三重(9)、高知(9)	・茨城産は、少なめの出荷だったが、生育が回復し、出荷量が増加傾向となっている。今後は出荷のピークを迎え、平年並みの出荷となる見込み。千葉産は、細め傾向で少なめの出荷になっている。 ・茨城産の出荷が順調と見込まれることから、価格は平年並みに近づく見込み。
	はくさい	67.05	41	54	69	・入荷見込量: 5,562t (95) ・主産地: 長野(46)、茨城(38)、群馬(15)	・茨城産は、生育が回復し順調な出荷となっているものの、出荷の終盤を迎える減少傾向となっており、中旬には切り上がる見込み。長野産は、生育が回復し準高冷地からの出荷が始まり、順調な出荷となり、今後は徐々に増加する見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		77.96	70	82	97	・入荷見込量: 2,800t (99) ・主産地: 長野(72)、茨城(18)	・群馬産は、順調な出荷となり、今後も平年並みの出荷となる見込み。茨城産も、順調な出荷となっている。栃木産は、最近の気温の上昇で順調な生育となり、今後徐々に出荷量が増えていく見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、平年を上回っていた価格は、5月下旬に平年並みとなったが、今後も平年並みに推移する見込み。
	ほうれんそう	376.1	401	581	407	・入荷見込量: 1,370t (100) ・主産地: 群馬(27)、茨城(18)、栃木(14)、埼玉(13)、岩手(12)	・群馬産は、順調な出荷となり、今後も平年並みの出荷となる見込み。茨城産も、順調な出荷となっている。栃木産は、最近の気温の上昇で順調な生育となり、今後徐々に出荷量が増えていく見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、平年を上回っていた価格は、5月下旬に平年並みとなったが、今後も平年並みに推移する見込み。
		396.89	441	556	525	・入荷見込量: 500t (99) ・主産地: 岐阜(79)、北海道(9)	・長野産は、順調な生育、出荷となり、平年並みの出荷となっている。今後も順調な出荷の見込み。群馬産も、平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
	レタス	156.23	153	178	159	・入荷見込量: 7,680t (100) ・主産地: 長野(71)、群馬(22)	・佐賀産は、露地物早生の出荷となっているが、定植時期の降雨等の影響で平年の7割程度の出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。兵庫産及び香川産も、最近の少雨等の影響で玉肥大が進まず、少なめの出荷となり、今後も平年より少なめの出荷となる見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		165	174	180	171	・入荷見込量: 1,750t (104) ・主産地: 長野(96)	・佐賀産は、露地物早生の出荷となっているが、定植時期の降雨等の影響で平年の7割程度の出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。兵庫産及び香川産も、最近の少雨等の影響で玉肥大が進まず、少なめの出荷となり、今後も平年より少なめの出荷となる見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
果菜	たまねぎ	71.02	96	93	94	・入荷見込量: 10,8985t (95) ・主産地: 佐賀(46)、兵庫(12)、香川(12)、輸入(6)、愛知(3)	・佐賀産は、露地物早生の出荷となっているが、定植時期の降雨等の影響で平年の7割程度の出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。兵庫産及び香川産も、最近の少雨等の影響で玉肥大が進まず、少なめの出荷となり、今後も平年より少なめの出荷となる見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		71.02	96	90	101	・入荷見込量: 3,100t (90) ・主産地: 兵庫(71)、佐賀(16)、大阪(6)	・埼玉産は、最近の好天の影響で順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、出荷量が回復し多めの出荷となっているが、今後はピークを過ぎ減少傾向で、平年より少なめの出荷となる見込み。 ・埼玉産の出荷が順調と見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
	きゅうり	189.84	219	259	177	・入荷見込量: 7,106t (102) ・主産地: 埼玉(33)、群馬(16)、福島(13)、茨城(10)、千葉(8)、栃木(6)	・埼玉産は、最近の好天の影響で順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、出荷量が回復し多めの出荷となっているが、今後はピークを過ぎ減少傾向で、平年より少なめの出荷となる見込み。 ・埼玉産の出荷が順調と見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		177.22	215	234	193	・入荷見込量: 1,700t (115) ・主産地: 宮崎(25)、愛媛(12)、福島(10)、高知(10)、香川(9)、群馬(6)、徳島(6)	・埼玉産は、冬場の低温の影響で根の張りが弱いため、小玉傾向で、前年より少なめの出荷となっており、今後も病害等の影響により、平年の出荷量には届かない見込み。茨城産は、最近の好天により生育が回復し、L玉中心の出荷となり、平年並みの出荷となる見込み。 ・埼玉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
	トマト	209.59	413	340	344	・入荷見込量: 8,650t (105) ・主産地: 栃木(25)、茨城(15)、千葉(15)、愛知(13)、熊本(9)、群馬(7)、埼玉(6)	・栃木産は、冬場の低温の影響で根の張りが弱いため、小玉傾向で、前年より少なめの出荷となっており、今後も病害等の影響により、平年の出荷量には届かない見込み。茨城産は、最近の好天により生育が回復し、L玉中心の出荷となり、平年並みの出荷となる見込み。 ・栃木産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		228.53	416	335	334	・入荷見込量: 1,650t (111) ・主産地: 熊本(27)、愛知(15)、北海道(14)、石川(13)、福岡(8)、徳島(6)	・高知産は、作柄は良好なもの、作付面積が減少しているため、少なめの出荷となり、今後も少なめの見込み。群馬産は、今後増加するものの平年には届かない見込み。福岡産は、花数が少ない時期の出荷となり、平年を下回る出荷となる見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。
	なす	297.07	303	297	321	・入荷見込量: 3,770t (100) ・主産地: 高知(32)、群馬(17)、福岡(17)、茨城(8)、栃木(7)、埼玉(4)	・茨城産は、順調な出荷となり、出荷のピークを迎える見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		271.01	304	299	317	・入荷見込量: 1,150t (127) ・主産地: 大阪(25)、高知(24)、熊本(14)、岡山(13)、福岡(10)、奈良(7)	・茨城産は、順調な出荷となり、出荷のピークを迎える見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
	ピーマン	308.36	392	316	299	・入荷見込量: 2,158t (102) ・主産地: 茨城(91)	・青森産は、通常なら6月上旬からの出荷であるが、生育の遅れにより、2週間程度出荷が遅れており、下旬から本格的な出荷となる見込み。千葉産は、好天で肥大が進んだことと、遅れていたほ場からの出荷が重なったことから、上旬までは多めの出荷となるが、中旬以降は平年並みの出荷となり、減少傾向となる見込み。 ・千葉産の出荷が多めと見込まれることから、価格は上旬までは平年を下回って推移する見込み。
		283.1	361	299	262	・入荷見込量: 360t (100) ・主産地: 高知(42)、宮崎(32)、和歌山(12)	・千葉産は、生育の遅れも回復し、平年並みの出荷になっている。上旬は出荷のピークを迎える見込み。埼玉産は、出荷のピークを迎えるが、作付面積が減っていることに加えて傷みも散見されることから、平年よりは少なめの出荷の見込み。 ・埼玉産が少なめと見込まれることから、平年を下回って推移している価格は、平年並みに近づく見込み。
根菜	だいこん	86.59	81	104	90	・入荷見込量: 8,031t (95) ・主産地: 青森(61)、千葉(27)、北海道(5)	・青森産は、通常なら6月上旬からの出荷であるが、生育の遅れにより、2週間程度出荷が遅れており、下旬から本格的な出荷となる見込み。千葉産は、好天で肥大が進んだことと、遅れていたほ場からの出荷が重なったことから、上旬までは多めの出荷となるが、中旬以降は平年並みの出荷となり、減少傾向となる見込み。 ・千葉産の出荷が多めと見込まれることから、価格は上旬までは平年を下回って推移する見込み。
		94.24	74	95	86	・入荷見込量: 2,400t (90) ・主産地: 青森(45)、北海道(25)、鹿児島(7)、長崎(6)	・千葉産は、生育の遅れも回復し、平年並みの出荷になっている。上旬は出荷のピークを迎える見込み。埼玉産は、出荷のピークを迎えるが、作付面積が減っていることに加えて傷みも散見されることから、平年よりは少なめの出荷の見込み。 ・埼玉産が少なめと見込まれることから、平年を下回って推移している価格は、平年並みに近づく見込み。
	にんじん	156.99	120	113	131	・入荷見込量: 6,906t (98) ・主産地: 千葉(75)、埼玉(11)、輸入(3)	・千葉産は、生育の遅れも回復し、平年並みの出荷になっている。上旬は出荷のピークを迎える見込み。埼玉産は、出荷のピークを迎えるが、作付面積が減っていることに加えて傷みも散見されることから、平年よりは少なめの出荷の見込み。 ・埼玉産が少なめと見込まれることから、平年を下回って推移している価格は、平年並みに近づく見込み。
		148.36	113	100	112	・入荷見込量: 1,950t (85) ・主産地: 長崎(43)、和歌山(25)、徳島(14)、兵庫(6)	・千葉産は、生育の遅れも回復し、平年並みの出荷になっている。上旬は出荷のピークを迎える見込み。埼玉産は、出荷のピークを迎えるが、作付面積が減っていることに加えて傷みも散見されることから、平年よりは少なめの出荷の見込み。 ・埼玉産が少なめと見込まれることから、平年を下回って推移している価格は、平年並みに近づく見込み。

種類	5月の価格動向			生育及び価格の6月の見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額					
		上旬	中旬				
いも	さといも	—	219	309	326	・入荷見込量：290t (−) ・主産地：輸入 (31)、鹿児島 (30)、千葉 (22)、宮崎 (12)	・鹿児島産は、生育が遅れ少なめの出荷となっているが、今後は生育が回復し増加する見込み。千葉産は、順調な出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		—	254	371	459	・入荷見込量：87t (−) ・主産地：輸入 (30)、鹿児島 (40)、宮崎 (17)	
	ばれいしょ	131.8	139	105	90	・入荷見込量：8,721t (105) ・主産地：長崎 (43)、静岡 (16)、千葉 (11)、茨城 (10)	・長崎産は、生育が遅れていたものの出荷がピークを迎える見込み。 ・上旬までは多めの出荷となる見込み。静岡産は、順調な生育で、今後出荷のピークを迎える見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		131.8	152	110	95	・入荷見込量：4,000t (96) ・主産地：長崎 (65)、北海道 (14)、熊本 (8)、静岡 (6)	

1) 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)。

2) 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景あるいは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)。

3) 単位は円／kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは、前年実績。

5) 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。

6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、4月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、4,620gで前年比96%、購入金額は、1,904円で同106%となり、購入量は前年をやや下回り、購入金額は前年をかなり上回った。

また、小売物価統計によると、5月のキャベツの小売価格は、180円で過去5か年平均比105%、レタスは、438円で同115%となり、キャベツは過去5か年平均をやや上回り、レタスは同平均をかなり上回った。

生鮮野菜の購入量及び金額 (1人当たりの購入量、金額)						
年	過去5か年平均		平成23年		平成24年	
	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)
1月	4,263	1,528	4,310	1,573	4,189	97
2月	4,403	1,552	4,267	1,629	4,499	105
3月	4,815	1,721	4,867	1,788	4,584	94
4月	4,779	1,812	4,796	1,789	4,620	96
5月	5,109	1,894	5,171	1,820	0	0
6月	5,043	1,872	4,904	1,857	0	0
7月	4,441	1,696	4,362	1,759	0	0
8月	4,348	1,719	4,392	1,717	0	0
9月	4,831	1,804	4,598	1,803	0	0
10月	5,262	1,862	5,037	1,884	0	0
11月	5,016	1,636	5,091	1,613	0	0
12月	5,145	1,834	4,998	1,792	0	0

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移
(単位:円／kg)

	キャベツ		レタス			
	過去5か年平均	平成24年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成24年	5か年比(%)
1月	166	230	138	547	690	126
2月	177	247	140	508	691	136
3月	188	238	126	461	692	150
4月	238	262	110	462	513	111
5月	172	180	105	380	438	115
6月	144	0	350	0	0	0
7月	160	0	324	0	0	0
8月	156	0	463	0	0	0
9月	155	0	562	0	0	0
10月	161	0	505	0	0	0
11月	162	0	371	0	0	0
12月	153	0	453	0	0	0

1) 過去5か年は平成19～23年の平均。

2) 平成24年5月の値は、5月中旬の速報値。

資料:総務省「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

4月までの輸入を貿易統計でみると、生鮮野菜は前年比104%の39万トン、加工野菜は同103%の60万トン、野菜全体では同103%の99万トン、うち中国からの輸入は同106%の50万トンとなつた。

生鮮野菜、加工野菜、野菜全体とともに前年をやや上回つた。

野菜の輸入数量の推移 (単位:トン、%)						
区分	平成22年		平成23年		平成24年1～4月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同期比	前年同期比
生鮮野菜	820,687	133	915,091	112	391,613	104
加工野菜	1,677,840	107	1,803,510	107	602,365	103
野菜合計	2,498,527	114	2,718,600	109	993,978	103
うち中国産野菜合計	1,284,449	117	1,409,984	110	498,607	106
中国産シェア	51		52		50	

資料:ベジ探(原資料) 財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

品目	輸入先	(単位:トン、%)	
		平成23年4月(A)	平成24年4月(B)
たまねぎ	合計	31,247	30,620
	中国	20,967	21,499
	ニュージーランド	4,593	5,578
にんじん	合計	8,688	9,188
	中国	5,410	6,136
	ニュージーランド	1,408	1,305
ねぎ	合計	3,819	4,260
	中国	3,817	4,257

資料:農林水産省「植物防疫統計」。平成24年4月は、速報値である。

4 トピック 一 夏秋野菜(果菜類)の作付面積の動向 一

農林水産省が、4月26日に公表した平成23年産の春野菜、夏秋野菜等の作付面積等によると、春野菜の作付面積は前年比100%の3万7千ha、たまねぎは同1%増の2万4千haであったが、夏秋野菜は同1%減の6万8千haとなった。

夏秋の果菜類は、漬物需要の減少等により作付面積がゆるやかな減少傾向で推移してきたが、平成23年産は、夏秋きゅうりが同96%、夏秋なすが同97%、夏秋トマトが同97%と、これまでより減少率が大きくなっている。

これは、これらの果菜類の主産地である東北地域が、東日本大震災等の影響を受け、大幅に作付面積を減少させたためである。とりわけ、夏秋きゅうりの主産地である福島県が、夏秋きゅうりで前年比84%と大幅な減少となり、夏秋なすと夏秋トマトについても大幅に面積を減少させている。

なお、夏秋きゅうりと夏秋トマトは、平成23年の単収が前年を上回ったため、需給への影響が緩和されている。

区分	23年作付面積	対前年比	平成18-22年の平均(対前年比)	
			(ha)</th	